



初夏の風が心地よく感じられる季節となりました。校庭の木々も濃い緑をまとい、子どもたちの元気な声がいっそう明るく響いています。新年度の緊張も和らぎ、学習や友だちとの関わりの中で、それぞれの成長が見られるようになってきました。今号では、6月を迎え、本校が「育てたい力」として最も大切にしている「主体性」について、考えたいと思います。

## 主体性と自主性の違い

6月を迎え、子どもたちは新しい学年の生活にも慣れ、学習や友だちとの関わりの中で、それぞれの成長が見られるようになってきました。そんな日々の姿を見ていると、改めて本校が大切にしたいと考えている「主体性」の重要性を強く感じます。よく「自主性」と「主体性」は同じように語られますが、実はその本質は異なります。

自主性とは、誰かに言われなくても自分で行動する力です。しかし、それは時に「やるべきことを自分でやる」という範囲にとどまることがあります。一方で主体性とは、「自分はどうしたいのか」「どうすればよりよくできるのか」を自ら問い、考え、選び取る力です。つまり、主体性は“内側から生まれる意欲”であり、子どもが自分の人生を切り拓いていくための根っこになる力です。

これからの社会では、正解のない課題に向き合い、自分の考えをもち、仲間と協働しながらよりよい答えを探していく姿勢が求められます。そのためには、指示を待たずに動く「自主性」よりも、自分の意思で学び、行動し、挑戦しようとする主体性こそが、子どもたちの未来を支える力になると考えています。

学校では、授業での話し合い活動や探究的な学び、委員会活動など、子どもたちが自分の考えをもち、仲間とともによりよい方法を探す機会を大切にしています。失敗してもやり直せる環境を整え、挑戦する姿勢を育てていきます。

ご家庭でも、子どもが自分で考えようとしているときには、すぐに答えを与えるのではなく、少し見守っていただければ、主体性の芽が大きく育ちます。伊丹小学校は、子どもたち一人ひとりが「自分で考え、選び、行動できる力」を育む学校であり続けたいと考えています。

学校 HP 随時更新中

